



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア内政：ジッダの人口増加とその弊害 (1月25日付アラブ・ニュース紙)

1. 巡礼省などによれば、ジッダの人口は、過去40年の間で着実に増加し、1970年には100万人であったが、1986年には140万人、1993年には200万人、最も新しい2010年の人口調査では320万人となった。現在の人口は400万人以上と見積もられている。人口増加の原因は、職や良好な生活環境を求め、郊外の小さな村から人々が流入してくることである。
2. このような人口流入を抑えるために、サウジアラビア政府は、小さな村の生活環境の改善を求められている。もし、改善が図られなければ、大都市に有害な結果をもたらされることになる。現に、ジッダでは鶏肉の値段が上昇した。また、人口増加により、毎年10万軒の住居が不足し、2020年には100万軒が不足すると言われている。ある投資運用会社は、2029年までに、さらに225万人が増えると予測している。